

## 座長のまとめ（7-9）

海野徳二（旭川医大）

この群の3演題はヒスタグロビン加ガンマグロブリン鼻ネビュライザー療法の臨床効果を発表したものである。前山先生らの発表によるとセファランチンの併用で有意差はないとのことであった。赤坂先生らは小児科の立場から小児鼻アレルギー患者に使用し、軽症の方がよく効くという結果を出した。これに対し斉藤先生らは重症例により有効例が多いと報告した。薬効の判定は、自覚症状、他覚的所見、臨床検査成績などから総合判定を行うのが通例である。小児科医にとっては鼻鏡検査を耳鼻科医と同じように行うのは困難であろう。これが結果の差にあらわれたのかも知れない。前山先生らは反射スペクトル解析によるピーク値が指標となり得ることを示されたが、誰にでも出きる客観的評価法の確立がのぞまれるところである。